

神楽名

たけのえだお 嶽之枝尾神楽

伝承地

嶽之枝尾地区
椎葉村大字大河内嶽之枝尾

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

嶽之枝尾神楽保存会
代表 中瀬 博光



注縄引鬼神

◆ 神楽の概要・由来・その他

嶽之枝尾神楽は、椎葉村の南部を流れる小崎川流域に位置する嶽之枝尾神社の例祭として、毎年12月に奉納される。日当、日添、臼杵又の3集落の氏神さまとして祀られる嶽之枝尾神社は、元久2年（1205）の勧請と伝わり、古くは平田大明神と呼ばれていた。嶽之枝尾神楽には平祭り
と3年に一度の注連の大祭があったが、現在は神楽の保存のため注連の大祭を毎年行っている。以前は民家で行われていたが、舞殿改築後は主に嶽之枝尾神社で奉納されている。「みこし神楽」と呼ばれる道神楽の継承のため、民家を神楽宿とする年もある。神社拝殿から神楽宿まで、「太刀の御先」「弓の御先」を先頭に、御先を切り唱行を唱え、法螺貝や楽を鳴らし舞い手や祝子が後に続く。神楽宿には内神屋と外神屋が設けられる。演目に組み込まれている「注連立」（注縄立）で、外神屋に設けられた高天原の青柴垣の祭壇に、御幣、紅白の反物、日月を表した御笠などで飾られる大宝の注連が、左右6本ずつの計12本、楽の音に合わせて立てられる。

激しい太鼓に静かな舞が特徴で、民神楽の「安永」以降は「ゴヤセキ」と呼ばれる女性達による神楽せり歌や囃子が夜神楽を盛り立てる。

◆ 芸能の機会・場所

- 嶽之枝尾夜神楽... 12月の第1土・日曜、嶽之枝尾神社または民家にて

◆ 演目一覧

宮神楽

やどかり
宿借

子供神楽(神粹)

稲荷神楽

ほしきし
星指

おきえ
御喜恵

綱入神楽(神粹と同時進行)

カガソ引き(綱引き)

だいじん
大神神楽

しめほめ
注縄誉

一神楽

しばいり
芝入神楽(稲荷神楽と同時進行)

うちきじん
内鬼神

ごつてんのう
牛頭天皇

みこし神楽

しめひききじん
注縄引鬼神

がんじょうげ
願成就神楽

たぢから
手力

伊勢神楽

つなもんどう
綱問答

綱切

しめたて
注縄立

みこうやほめ
御高屋誉

ひらてしきさんばん
平手式三番

芝問答

ととり
戸取

岩戸舞

としかみ
年の神

みかさまい
御笠舞

しめしょうぎょう
注縄の唱行

あんなが
安永

もん
紋神楽

だいじん
大神神楽

しばひき
芝引

かんしい
神粹

火の神

神送り

※平成27年12月に奉納された演目に基づく

◆ 演目の特徴

「宿借」では、杖をつき破れ笠に蓑を背負う旅人の姿に扮した山神が、宿の主人に一夜の宿を請い問答する。「御宿申し候」で始まる問答の末、山神は宿を借り受ける。この地区特有の演目で、悪神を払い、村に寿福を授ける神の来訪を現していると云われる。星祭りの舞である「星指」も嶽之枝尾の特徴的な演目で、白布一反を付けた榊枝を採り物として舞い、風神払い、太陽、月、星の唱行を唱え、願成就を祈る。「注縄の唱行」「宿借」「注縄誉」「注縄引鬼神」では、内神屋と外神屋の双方を使用して、神を迎える。「入増」「綱切」「御笠舞」等の神送りの意味が強い演目は外神屋で舞われる。

修験道の影響が色濃く残る例として「注縄の唱行」では注連ではなく剣の由来が唱えられる点、その内容から熊野信仰が及んでいた事がうかがわれる。

◆ その他の特徴

- 面... めしょう面、鬼神、手力、戸取 等
- 楽... 太鼓、縦笛、横笛、楽板、鉦、法螺貝
- 装束... 白の舞衣、袴、カラス折れ（侍烏帽子）、赤鉢巻、宝冠、箕、笠、毛笠 等
- 採り物... 御幣、面棒、扇、鈴、弓、矢、刀、盆、榊枝、櫻、小槌 等
- 文書... 「昭和22年 嶽枝尾神社祭例格式 中瀬淳編」や昭和30年前後に記された「平田大明神 嶽之枝尾神社唱行」の写し等が保管されている

◆ 伝承の現状・課題

一部の演目で世襲制が残っている。保存会会員は20名、高齢化は否めないが、各々が舞、楽、唱行を覚え、誰もが出来るように練習をしている。韓国や東京での公演など、神楽継承を目的とした保存活動にも力を入れている。



宿借



星指



岩戸舞